

徳島市立2年ぶりV

女子は池田 10度目頂点



男子・徳島市立対池田 前半15分、徳島市立の藤原がシュートを決め10-5とする＝徳島市立体育館

ハンドボールの徳島県高校選手権最終日は17日、徳島市立体育館で男子準決勝と男女の決勝が行われた。男子は徳島市立が25-10で池田を下し、2年ぶり7度目の優勝。女子は池田が17-7で鳴門を破り、3年ぶり10度目の頂点に立った。

【男子】準決勝 徳島市立33-14城南、池田14-13鳴門

【決勝】徳島市立が堅守と高い攻撃力で圧倒し、主将の中川、藤原を中心に素早い攻めを見せ、前半で5点のリード。守備でも相手の攻撃パターンに合わせてフォアミーションを変えるなど奮闘したものの、及ばなかった。

圧勝も試合内容反省

徳島市立

内容としては物足りないというのが共通認識だ。スタメン7人のうち、5人が中学時代からの経験者。中川主将と藤原は1年からレギュラーで、新チーム結成後の昨年12月、全国選抜大会県予選も制した。今大会も優勝が確実視されていただけに「うれしけど通過点の一つ。まだまだレベルアップしないといけない」と中川は表情を引き締める。

守備の隙を突かれて相手に得点を許したり、ノーマークでシュートを外したりしたことが反省材料。「シュートの決定力を高め、守備も強化したい。市高らしいプレーを磨き、インターハイにも出場し、初戦突破を目指す」。優勝を励みに、全国の舞台での飛躍を誓った。(乾栄里子・写真も)